

登録コード:MH509100 開講年度:2026		授業科目区分	学科共通専門科目 必修
科目名	栄養学【20M以降】 Nutrition		
担当教員	沖嶋 直子 下里 誠二		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	全専攻/1年 後期(前半) 火曜・3時限		
単位数、講義室	1単位	多目的講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	非該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	栄養に関する正しい知識の習得を通し医療専門職の活動に役立てる力を養う。
	MH25カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・看護		
	＜基礎的・専門的な知識と技能＞看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	栄養に関する正しい知識の習得を通し看護専門職の活動に役立てる力を養う。
	MH25カリ・保健・検査, MH25カリ・保健・理学, MH25カリ・保健・作業, MH23カリ・保健・検査, MH23カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・作業		
	＜基礎的・専門的な知識と技能＞保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	栄養に関する正しい知識の習得を通し保健・医療専門職の活動に役立てる力を養う。
	MH25カリ・保健・看護, MH25カリ・保健・検査, MH25カリ・保健・理学, MH25カリ・保健・作業, MH23カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・検査, MH23カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・作業		
	＜科学的探求力＞変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	科学技術の発展に伴い日進月歩が続けている栄養学について、医療人の立場から常に最新、かつ科学的に正しい知識を選別し得ようとする力、ならびにそれらを臨床で実践する力を養う。
授業で学べる「テーマ」	多文化協働、健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	栄養学は健康の維持増進、疾病の予防ならびに回復に重要な位置を占め、医療職にはNST(Nutrition Support Team)の一員として貢献することが求められています。本講義では各栄養素の主なはたらきと過不足による影響、発達段階に応じた推定エネルギー量の算出方法、推定平均必要量、推奨量、目安量、目標量がなぜ設定されているかを講義します。また、食事摂取が困難な状況での栄養管理、食事療法、身体機能の推進など、目的に応じた栄養素の効率的かつ適切な摂取方法を講義します。さらに献立や処方内容、健康診査や検査値からの個別事例の栄養アセスメントと、具体的な栄養指導を行うための基礎的知識を教授します。 本授業の一部で実際に臨床栄養士や病院での栄養管理チームとしての実務経験の実際をふまえた内容を提供します。 本授業は、1年前期で学んだ基礎医学系科目（生化学、解剖学、生理学など）の知識を前提とし、2年次前期に展開される各専攻の専門科目の病態学・疾病治療学系の理解に非常に重要となります。さらに、3年次以降の疾患・領域別の演習・臨地実習においても重要な知識となります。		
授業計画	第1回(9月29日) 栄養学概論 (沖嶋直子) 第2回(10月6日) 主要栄養素の種類とはたらき：実践的知識を中心に(沖嶋直子) 第3回(10月13日) 微量栄養素の種類とはたらき：実践的知識を中心に(沖嶋直子) 第4回(10月20日) 日本人の食事摂取基準の活用(沖嶋直子) 第5回(10月27日) 食品分類および特色、食事バランスガイドの活用(沖嶋直子) 第6回(11月10日) 臨床栄養①病院食・治療食の意義・種類(丸山陽子) 第7回(11月17日) 臨床栄養②NST(病院栄養管理チーム)の目的と活動(大野康成) 授業アンケートを行う。 第8回(11月24日) まとめ、試験		
授業の進め方	講義・演習により進めます。		
テキスト, 教材, 参考書	テキスト：渡邊早苗ほか(編)：健康と医療福祉のための栄養学(最新版), 医歯薬出版.		
成績評価の方法	1)期末試験に基づいて成績を評価します。 2)期末試験は、担当した講師毎に出題します。 3)理解度の到達度を確認するため、講義内容に沿った基礎的知識を確認する問題を出題します。		
成績評価の基準	期末試験の判定評価は、下記の通りとします。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可とします。 なお、これらの採点の基準は、行動目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤を指標とし、授業で説明した範囲における、最低限の解答内容であれば「水準にある」、やや詳細な解答内容であれば「やや上にある」、十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している」と判断します。		

事前事後学習の内容	本授業の単位習得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間15時間（2時間×7.5回）＋自己学習時間30時間（4時間×7.5回）＝45時間 【事前学習課題】 必要時講義内で説明を行います。 【事後学習課題】 講義内で説明を行います。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	・栄養学は医療の専門職として、患者の栄養評価、チーム医療での介入において必要な知識となる。栄養学的視点の評価から食事指導、栄養管理までの総合的な視点をもった医療専門職となるための基礎的知識の習得のための努力を期待する。 ・栄養学の知識は、学生自身の日常生活にとっても、重要な知識となる。学んだことを生活で実践し、自身の健康管理に役立ててほしい。その経験が、将来の臨床での食事指導やチーム医療における実践に繋がる。 ・相談への対応:講義内容については各回の講師に適宜行う。そのほかの相談については保健学科下里先生まで連絡ください。なお、沖嶋は教育学部（西長野キャンパス）の教員であるため、質問や相談は「okishima_naoko@shinshu-u.ac.jp」までお願いします。